



大砂土中だより

はつ らつ
澆 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.5 令和5年8月29日号

自ら学ぶ

校長 上統 昌司

今日から2学期が始まります。厳しい暑さが続いたこの夏休みでしたが、皆さんはどのように過ごすことができましたか？終業式に「夏休みにしかできない事、夏休みだからこそできる事に挑戦してほしい」と話しました。普段ではできない取組を、結果はどうか、先ず挑戦してみたかどうか大切だと思います。あなたは何に取り組み、何を得られたのか、振り返ってみてください。そして、その挑戦が2学期の生活に活かされることを心から願っています。

さて、この夏休み中に読んだ新聞記事の中で、私の心に響いたお話を紹介したいと思います。それは、今回の夏の甲子園大会に出場したある高等学校野球部の取組についてです。その学校は、創立が明治後期で歴史と伝統のある学校です。野球部の歴史も古く、脈々とその伝統が引き継がれてきたことが記されていました。そんな歴史と伝統ある野球部の取組、特に考え方に私は注目をしました。監督が練習メニューや作戦、技術指導等を行うのはどの県の、どの高等学校でもよく耳にする内容だと思いますが、紹介する高等学校では、全てを監督が指揮をとるのではなく、部員が自ら提案して練習メニューを作ったり、作戦を考えたりする場面を多く取り入れていることに興味をもちました。甲子園大会に出場するレベルであれば、経験豊富な指導者が指揮をとり、グイグイ引っ張っていくイメージがありましたが、選手や部員に任せる場面があることに驚きを感じます。具体例でいうと、こんなことがあったそうです。ある日、監督さんが部員に対して「盗塁のサインを君たちで考えてみてはどうか」と、提案しました。すると、練習後に部員全員でサインを考え始め、結論が出たのは夜遅くになっていたそうです。監督さんが自分たちの事を信頼し、任せてくれたことへの喜びと、チームの結束に役立ったそうです。今回紹介した学校だけではなく、他の種目でも同じような内容の記事を読んだことがあります。

大砂土中学校も特に行事への取組では、生徒自らが考え行動する場面をたくさん見ることができて、とても嬉しく思っています。誰かに言われてからではなく、先ずは自分で考え、行動する習慣を大切にしましょう。大砂土中生の自主的な取り組みに期待します。

最後に、地域の皆様、保護者の皆様、2学期も本校の教育活動につきまして、ご理解・ご協力を賜りますよう、お願いいたします。